異学年で遊ぶ機会を増やす たてわり班遊びの時間

日常の生活の中で、異年齢で触れ合うことが少なくなった子どもたちに、意図的に異学年が触れ合って遊ぶ機会を増やすことで、日常の交流を深めるきっかけとすることができます。全校による体育朝会や集会などの場を設定することもできますが、定期的に休み時間を「たてわり班」による遊びの時間として設定することによって、より日常的に触れ合うチャンスを増やすことになります。教師側の意図的な「しかけ」として、ともにふれあう「時間」「場所」「活動の方法」「活動の仲間」を準備することが大切です。

時間の設定

《例１》毎月１回、第４火曜日の昼休みを「たてわり遊び」の日とする。この日は清掃をとりやめて、35分間を遊びの時間にあてる。

《例２》学期に１回、１週間連続で中休みを「たてわり遊び」週間とする。

※このほか、体育朝会でたてわり班対抗のゲーム（ボール送りや長なわ跳び等）をして、団結を高める。

※運動会種目にたてわり班の種目を設ける。
《例》２人３脚リレー、背中ボール運び競争、ムカデ競争、みんなでジャンプ大会等

※年度始めに班を編成した際に、１時間話し合いをもち、仲間づくり、役割分担、活動方法の希望などを行う。

場の設定

●年間通して、活動場所を固定して、必ずその場所に集まって遊ぶようにする。校庭、体育館、屋上、その他各学校の実態に応じて可能な活動場所を確保する。

●前後期、各学期等で場所を変わって、活動内容が固定化して行き詰まらないようにする。

●玄関付近の共通掲示コーナーに、たてわり班遊びの計画等の情報掲示をして、意欲・関心を高める。活動方法の紹介等の情報提供も行うことができる。

活動の掲示

（１）総合的な学習の時間で、運動遊びの方法を知り、遊びのバリエーションを広げたり、コミュニケーションを高める活動をしたりする。
《例》５年生の３学期に「遊び」テーマにした総合的な学習に取り組む。

（２）たてわり班結成前に、リーダーとなる高学年に活動の概要を知らせ、見通しがもてるようにする。
※話し合いの進め方、役割の分担の仕方、遊びのバリエーション等

（３）たてわり班結成時に、６年生の代表によって、活動場所を決定する。また、掲示コーナーを活用して遊びの紹介をする。

（４）たてわり班の話し合い（学校行事の時間設定）で、仲間づくりとともに、活動場所を知らせ、その場所でできる活動を話し合う。

（５）話し合いの結果を各班から集め、どんな活動をするのか掲示コーナーに情報提供をして、遊びのバリエーションへの関心を高める。

（６）「たてわり班遊び」を進めながら、活動を修正・発展させていく。

仲間づくり

年度始めに、教師側で「たてわり班」を編成する。

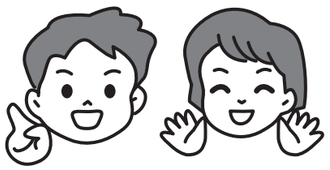
（１）構成
原則として各学年２名ずつ、計12名の構成。
２班ずつがペアとなり、１人の教師が担当者になる。

（２）構成時の留意点
兄弟姉妹は分けるようにする。
男女の人数が偏らないようにする。

（３）各班の役割分担
班長（活動のリーダー、代表者会議への参加）
副班長（１年生の誘導係　用具等の準備係）

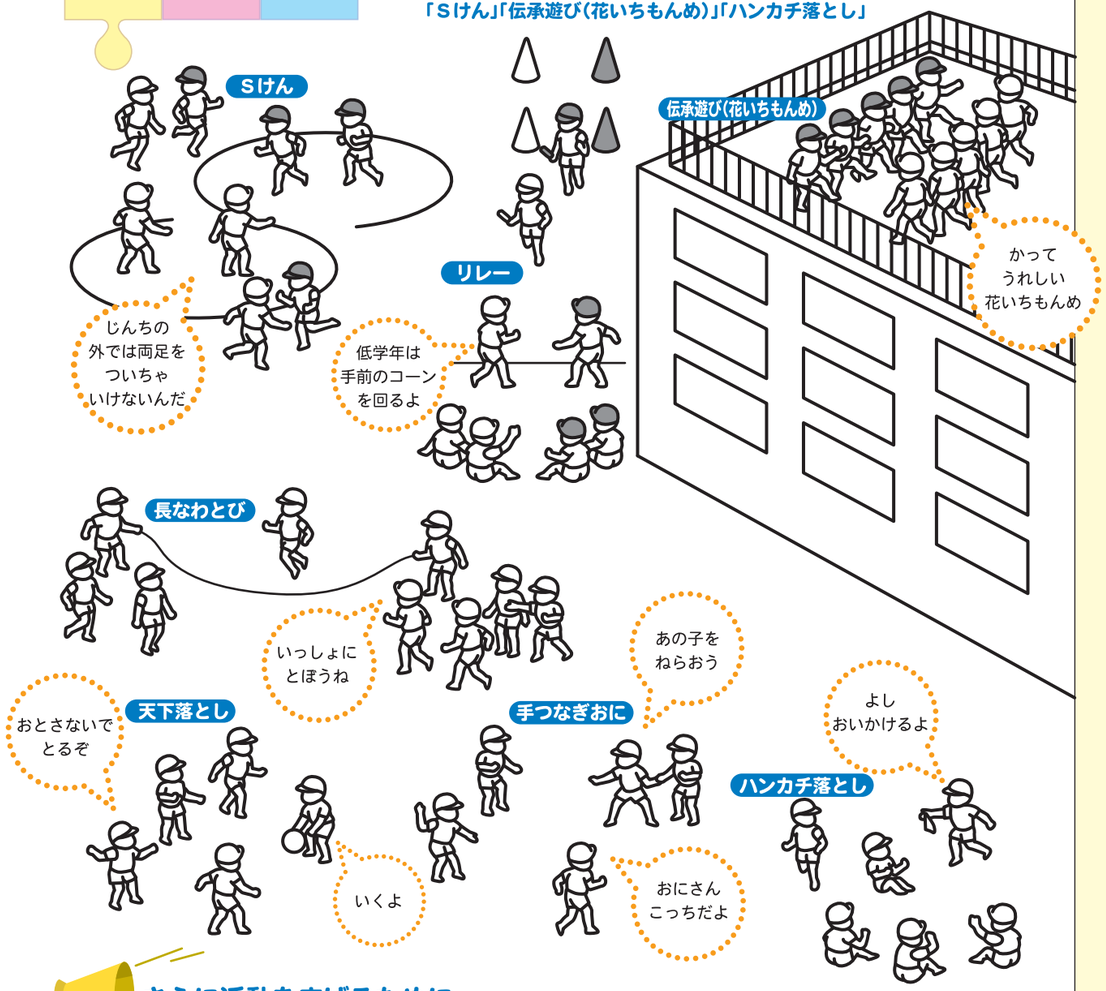
※たてわり班を地域ごとに編成することもできる。ただし、学校の実態によっては地域ごとに人数に差が生じたり、低学年が多くなる等、学年間のバランスが取れなくなったりすることもあるので配慮を要する。

※たてわり班活動を数年間、継続することにより、「高学年になったら班長をやろう」という意欲が育ち、子どもたちの自治的な集団意識が芽生えてくる。



活動の実態

《活動の例》
「おにごっこ」「ドロケー」「リレー」「手つなぎおに」「かんけり」
「ドッジボール」「天下落とし」「バスケットボール」「長なわとび」
「Ｓけん」「伝承遊び（花いちもんめ）」「ハンカチ落とし」



さらに活動を広げるために

《遊びを広げる》
●「掲示コーナー」に継続的に遊びの情報を知らせる。
●「総合」の学習等で子どもが自分で新しい遊びについて調べる。
《例》
昔の遊び、地方の遊び、世界の遊び、創作の遊び

《かかわりを広げる》
●ペアグループで対抗戦を行う。
●活動場所が隣接しているグループでともに遊ぶ。
●保護者や地域の人にも呼びかけて、ともにかかわって遊ぶ。
●前後期でたてわり班を再編成する。

《かかわりを深める》
●雨天の場合には、担当の教室に集まり、本の読み聞かせをしたり室内ゲームをしたりして活動を保つ。
●清掃活動をたてわり班単位にして、日常のかかわりを促す。
●掲示コーナーに各班の情報提供スペースを設ける。